

# 「当院の新しい スペシャリスト」 看護部トピックス

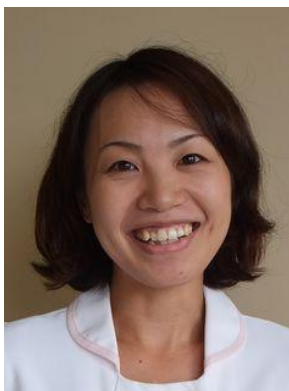
VOL、10



糖尿病看護認定看護師

坂本典子

私は、2012年7月に糖尿病看護認定看護師の認定を受けました。糖尿病の治療は、それぞれの患者様が自分で行うセルフケアが中心となります。食事・運動・薬物療法の3本柱への取り組みをします。その中で、無理なく自分のできる事を見つけ、生活の中で工夫しながら実践し継続していくことが『鍵』となります。長い療養生活を送る患者様一人ひとりの生活に沿い、どのようにセルフケアを行ってあげればよいか、また患者様やその支援を行うご家族と一緒に考えていきたいと思っております。気軽に声をかけてください。



乳がん看護認定看護師

三浦正美

乳がんには様々な治療選択があり個別性が高く、療養中に患者さんにもご家族にも様々な意思決定が求められます。乳がん看護認定看護師の役割は、専門的な知識をもとに、乳がんと疑われた時から終末期まで、女性ならではの悩みも含め、患者さんやご家族が自分達らしく生活できるように一緒に考え、療養生活を支えていく役割があります。そのためにも、様々な職種のスタッフが乳がんの理解を深められるよう活動していきたいと思っております。





がん性疼痛認定看護師

宮久保朱実

がん性疼痛看護認定看護師は、がんに伴う痛みなどの症状に対して、苦痛が軽減されるように援助していきます。また、痛みなどの症状があっても、治療の継続、生活の維持・向上ができるように支援していきます。

薬剤の効果や副作用対策、適切な内服方法の支援などの薬剤に関することのほかにも、心理的な苦痛の緩和につながるようがんばります。



緩和ケア認定看護師

山岸良治

緩和ケア認定看護師は、がんに伴う苦痛な症状(身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛)を、アセスメントし、より良いケアの為に情報および技術提供し、実践をしていくスペシャリストです。また、医療スタッフに対しても緩和ケアの実践に関する指導と相談を行います。緩和ケアの普及と看護の質の向上を目指し日々活動していけるよう頑張ります。





グリーフケアアドバイザー

本田理恵

私は、日々の臨床現場から、愛する人との死別を体験し、心の奥深くの悲しみや苦悩など、悲嘆を経験している方と接する機会が多くあります。この取り去ることのできない深い悲しみや痛みを抱えている方へのケア、共にいることの難しさを痛感しています。一方、人は悲嘆を経験し、その悲しみや痛み、苦悩を通して強さや成長を成し遂げるといことも実感しています。悲嘆は、人が生きていく中で辛い経験であり、悲嘆を乗り越えようと歩むこと、悲嘆と共に生きていくことは、人の人生にとって深く、重要な意味を持っているのではないかと感じています。悲嘆の中にある人へのサポートは重要であり、看護専門職として、何ができるのか、必要としているニーズは何か、など模索しながら寄り添い、関わり続けています。悲嘆の中にいる人のニーズに応え、その人らしく生きることを少しでも引き出すために、グリーフケアの専門知識と技術を広め、実践していくことが、グリーフケアをサポートする者として責任を果たすことに繋がると考えます。今回、日本グリーフケア協会のグリーフケア・アドバイザー1級認定を取得したことから、悲嘆の中にいる患者さん、ご家族、スタッフへの支援を実践したいと考えています。

